

氷になるかな？

かえで組 2023.1.25

昨日氷ができるかもしれないと、子どもたちと色々な容器に水を張っておきました。「大きいのが作りたい!」という声が上がリタライや本に載っていた手袋にも水を入れます。

色のついた氷を作りたい!

「きれいな色の氷にしたい!」ペンで好きな色を混ぜて色水を作りました。日が出てくると、「氷が溶けちゃう!」と急いで日陰に運びます。「ここが一番寒そうだね」「これなら雨が降っても大丈夫!」、軒下の角に段ボールを置いて、中に色水を入れました。「まだ凍ってないかな?」「少し固くなってる...?」氷になるのが待ち遠しいようでした。



氷は透明だ!

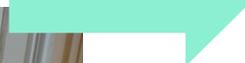


段ボールの外に置いていた色水は凍っていましたが、でも氷は透明!? 色付きの氷はできませんでした。

翌日...

急いで日陰に
運ぼう!!

氷の研究所



雪が入らなかった
からかな?

段ボールの中に置いていた
色水は固まらず...

段ボールの中は
暖かいんじゃない?

凍っていたのは、段ボールの外に置いた容器の上の水だけで、色水は下に沈澱していました。「色の氷ってできないのかな」「段ボールの中の水はなんで凍らなかったんだろう」疑問がいっぱいです。

身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ

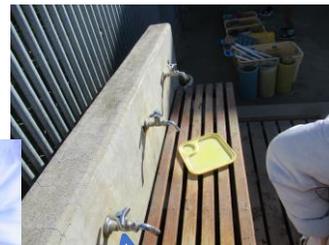
凍ってる！！

ドキドキしながら登園してきた子どもたち。
「本当に凍ってる！」
「あっちも見に行ってみよう！」
「大きい！」と本当に凍ったことに驚き、
徐々に登園する子どもたちにも知らせようと、
声をかけていました。

期待感を膨らませながら登園する様子が見られました。本当に凍った！ということが嬉しく、その驚きを友だちと共有したいという気持ちが生まれていました。ビニール袋にいれた色水が凍っていなかった友だちには、「今日と同じようにしていたら、また凍らないから、明日は少し変えてみるといいよ」と子ども同士アドバイス。周りを見渡すといろいろな変化にも気づき、寒い冬の自然を楽しんでいました。



手袋は片方だけ凍りましたが・・・
氷が薄くて、なんとなく手の形？
明日も挑戦します！



大きさや美しさ、不思議さなどに気が付く

かき氷屋さん

氷をお玉やシャベルで叩くと細かく飛び散る様子を見て「こうすると雪が降るの」とA児。かき氷屋さんを友だちと始めます。

細かい氷は雪のように見え、実際に上から雪が降っているように見せてくれました。その表現がとても素敵だなと思いました。大切に袋に氷を集めたA児。幼稚園でできた氷は特別だったようです。

夏まで解けない氷です！

砂も凍ってる！

水が出ない！
水道も凍ってる！

地面もひび割れてる！
落ちないように気をつけて！

季節の変化を感じ、子ども達の不思議に思う気持ちを大切にしながら、自分たちなりに探求する姿を支えていきたいと思います。

明日はどうなるかな？